

## 「みえの現場・すごいやんかトーク大学編」 in 鈴鹿国際大学の概要

10月5日（水）に鈴鹿国際大学で「みえの現場・すごいやんかトーク大学編」を開催しました。

当日は、「国際交流と地域貢献」というテーマで、国際交流クラブや観光学科、運動クラブなどで活動する留学生や日本人学生など10名の大学生と知事が意見交換を行いました。



### （活動内容の紹介及び自己紹介）

最初に、知事から、これから地域や国を担う若い皆さんには、いろいろな意見を言う権利と言わなければならない責任の両方があるので、若い世代の率直な意見を是非聞かせてほしいというあいさつがありました。続いて参加者から自己紹介とともにそれぞれが行っている活動の紹介がありました。



### トーク参加者及び活動内容について

○ ファシリテーター  
国際学科教授 アーナダ クマール

- WA I (We Are International)  
4年 高萩 なぎさ (日本)  
2年 スス (ミャンマー)

いろいろな国の留学生や日本人学生が集まり、地域の学校や住民との交流やボランティア活動を行っている。

- グローバルスタディ  
4年 スジャーニ (スリランカ)  
3年 馬 玉鳳 (中国)

地域社会に貢献するという大学のプログラムの一環で、留学生などが地域に出向き、自分の国の文化や体験などを紹介し、多文化共生社会の実現をめざしている。

- さくら茶道部  
2年 キム ソンイ (韓国)  
日本文化のひとつである茶道を通じて、日本のおもてなしの心を学んでいる。また地域でのイベントや交流会などでは、通訳のボランティアを行っている。

- 旅行研究部  
2年 川合 恵弓 (日本)  
地域や学校行事などに参加し取材した内容を学内新聞として紹介したり、地域ごとのパンフレットづくりなどの活動を通じて地域おこしのお手伝いをしている。

- 匠の里フェスタ企画  
4年 キム ミンジョン (韓国)  
伊勢型紙産地協議会が主催する「匠の里フェスタ」のボランティアスタッフとして、地域イベントの企画段階から参加している。

- 男子バレーボール部  
3年 林 裕一 (日本)

- 女子ソフトボール部  
2年 杉田 かな (日本)

- レスリング部  
大学院1年 河野 隆太 (日本)

### (地域での活動を通じての思い)

これまでの地域でのさまざまな活動を通じて、感じたこと、印象に残ったこととしては、小学校での国際交流の場で、子どもたちの中には、マスメディアや大人からの情報だけで、その国のイメージを作り上げたり、偏見をもっていたりすることがあるが、実際に留学生とふれ合う中で、外からの情報にとらわれない部分を感じてもらうことができた。実際に交流し、コミュニケーションをとることの大切さを感じたという意見が出されました。

また他の留学生からは、小学校でボランティアをしているときに、授業中、先生の話を受けない生徒やそれを注意しない教師を見て、自分の国との違いに驚いた。これからの日本を良くするのは、今の若い人や子どもたちなので、もっと集中することを学んでほしいとの意見も出されました。

### (自分たちの夢や地域のために)

知事から「経済発展すれば幸せになると思うか」という問いかけには、「ミャンマーでは、まだまだ経済発展途中なので、まずは経済的なことが重要」という意見や「幸せになるためには、お金だけでは足りない。家族と一緒にいて、つながっているからこそ幸せを感じるというのは世界共通の思い」という意見がありました。

また、日本人の学生からは、留学したいと思っても経済的に難しいことから夢をあきらめる人もいたため、支援制度などがほしいという意見や三重県全体としてスポーツ振興のために専門的なドクターがいる病院などの環境整備や三重県出身の全日本チャンピオンなどから直接指導を受ける機会を設けるなど、指導者育成の面にも力を入れてほしいという意見も出されました。

知事からは、「行政や政治ではなかなか人の心を動かすことは難しいが、スポーツには人を感動させる力がある。そういう力を借りて三重県に一体感をつくっていきたい」というコメントがありました。

### (これからの人生で大切にしていきたいこと)

最後に知事から、どういう大人になりたいか、どういう人生を送りたいか、あるいはこれからの人生の中で大切にしたいことは何かという問いかけがあり、「自分だけでなく、周りの子どもや若い人もよくなるようなことをやりたい」「夢を失わない大人になりたい」「周りの人にとってプラスの存在になりたい」「自分自身で、事実をきちんと知って、自分に何ができるかを考え、実行できる大人になりたい」「日本と自分の国をつなぐ柱になりたい」という思いが述べられました。

また、「日本一若い知事のように、三重県をフレンドリーで活発で元気になっていただきたい。それをみんなで創っていけたら」という意見も出されました。

### 知事から大学生の皆さんへのメッセージ

最後に、知事から大学生の皆さんへお礼とともに、今後の活躍に期待し、次のようなメッセージが送られました。

- ・つらい時、しんどい時こそ、前向きな言葉を使うように心がけてほしい。
- ・学生時代は、なるべく価値観の異なる人とつきあうことで、多くのことが得られるはずなので、そういう機会をたくさん持ってほしい。

